



子どもの居場所づくり  
地域ではなくむ

さあ、

# 子どもたちと ふれあおう!



## 寒風の中、うさぎ小屋の落成式に沸く!

「遊び」を通して地域みんな子どもを育てようというさわやか福祉財団の「子どもと交わろうプロジェクト」の取り組みである長野市での2回目のガイダンス（遊びの広場）、長野市立下氷鉋しもむがの小学校の「親子でうさぎ小屋を作ろう!」は、周囲の山々が白い雪に包まれた12月16日（日）に5日目、落成式の日を迎えた。

（取材・文／有馬 正史）

### 子どもたちの思いを大切に、大人が動いた

長野市立下氷鉋小学校（長野県）

遊びの広場「親子でうさぎ小屋を作ろう!」は、6年生の飼育委員長穂莉加奈さんや飼育委員みんなの「今の飼育小屋は、鳥のちやぼとうさぎが一緒にいて、うさぎは増えるし、ふんの臭いもして、

ひどい状態。夏は暑くてかわいそう。道具もちらかしっぱなし。もっとうさぎが住み心地よく、全校のみんなからも愛される小屋にしてほしい」という願いから始まった。そこに、増田豊校長、小林昭寛教頭、島田和政先生、飼育担当の飯島明子先生、PTA会長の青木尚久さん、鉋会かんなかい（親の会）の部長霜鳥和憲さん、青木さんの友人の建築設計事務所社長藤沢薫さんたちが子どもたちの願いに吸い寄せられるがごとく、集うことになった。増えたくさなぎ数匹は地元新聞で飼い主を探し、地域の方に引き取られることになった。そして、

旧うさぎ小屋の真向かいに新しいうさぎ小屋を建てることになり、まず、飼育委員の子もた



子どもと大人が協力し合っ  
うさぎ小屋は完成した



落成式で獣医師さんにうさぎの飼い方を聞く

うさぎの飼育について取材をさせてから、設計に取りかかり、みんなが協力しないと完成しない仕上げを張り巡らせた。

それからは、子どもたち、飽会、PTAのお父さん、お母さんたち総出の取り組みとなった。社員の大工さんもボランティアで参加してくれ、参加者は、延べ200人を超える。島田先生は、1日目から参加者の活動を写真に撮ってはすぐに現像し、渡り廊下の壁に次々に張り出した。その枚数は200枚にもなる。自分たちの写った写真に参加者たちは大喜び。それが参加者の輪を広げて

いった。

旧うさぎ小屋も、子どもも大人も一緒になって慣れない手つきでペンキを塗り、見違えるようにきれいになった。子どもたちのトレーナーはペンキだらけ。髪の毛にまでペンキが付いている。でも、みんな満足そうだ。9割完成したところで、落成式を行う。子どもたちが藤沢さんや大工さんに感謝状を手渡した。藤沢さんは、お礼に電子オルガンで歌を演奏して子どもたちを驚かせた。最後に茶臼山動物園獣医師の北澤功さんをお招きして、うさぎの飼育の仕方をみんなで聞いた。北澤さんは、「うさぎのことをみんなで考えて、小屋作りからしっかり勉強して取り組んでいる例は珍しいことです」と、この取り組みを誉めてくれた。形ばかりでなく、心も込めたうさぎ小屋は完成した。私たちは、日頃子どもたちの思いをどのくらい受け止めているだろうか。つつい、面倒だからと大人中心に物事を進めてはいないだろうか。もう一度、子どもの目線で、子どもの声に耳を傾け、子どもと一緒に動いてみてはどうだろうか。